

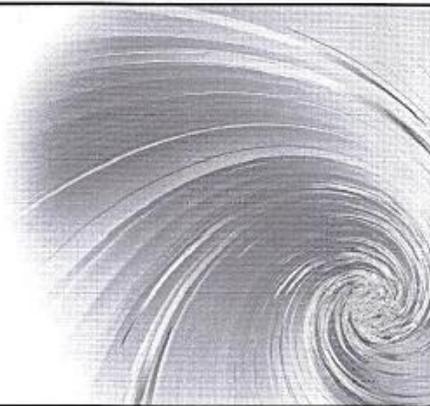


四国作業療法士会連絡協議会

NEWS

発行所：四国作業療法士会連絡協議会
四国作業療法士会連絡協議会 事務局
〒769-0205
香川県宇多津町浜五番丁 62-1
四国医療専門学校
TEL:0877(41)2330 FAX:0877(41)2332

発行人：松本 嘉次郎
編集人：大森 大輔



第34回四国作業療法学会のご案内



第35回 四国作業療法学会
学会長 稲富 惇一

第35回四国作業療法学会開催

はじめに、第34回四国作業療法学会が盛会に終わられたこと、心よりお祝い申し上げます。私も2日間参加させていただき、学会テーマである「たいけん・けいけん」を積むことができ、四国四県の作業療法士の「つながり」を実感する学会であったと感じました。山田太一学会長をはじめ、実行委員の皆様のご尽力に深く敬意を表します。この素敵なバトンを引き継ぎ、次回四国作業療法学会を盛り上げていきたいと考えております。

さて、第35回四国作業療法学会は「共に前へー私たちは未来に何を残せるかー」をテーマに掲げ、一般社団法人高知県作業療法士会が担当いたします。このテーマを考えるにあたり、実行委員長・事務局長と共に、これまでの四国作業療法学会誌を読み返しました。そこには、諸先輩方の積み重ねてこられた努力と情熱が刻まれており、その精神を未来へとつなぐ責任を強く感じた次第です。主題である「共に前へ」には、世代や県境、それぞれの分野を超えて、共に力を合わせてより良い未来（明日）へ繋がるように出会いと学びと気づきのある学会にしたい、という願いを込めました。そして副題「私たちは未来に何を残せるか」は、その歩みの先にある問いです。不確実で変化の大きな今の時代において、私たちの活動は本当に先の未来に繋がるのか、社会や後輩に残せるものは何か？を改めて皆さんと考えていきたいと思っています。

開催日は2026年10月17日（土）・18日（日）の2日間、場所は高知健康科学大学／土佐リハビリテーションカレッジ（高知市大津乙 2500-2）にて開催いたします。学会テーマに沿った講演や企画を準備しておりますので、ぜひご参加いただければ幸いです。また、皆様の日々の学びや実践の成果を、発表というカタチで共有していただきたく存じます。

高知県での現地開催は2016年以来10年ぶりとなります。2020年に予定していた高知開催は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期され、2022年にオンライン開催となりました。当時、対面開催を願い準備されていた学会長や実行委員の方々の想いも引き継ぎ、誠意をもって準備を進めております。本県には、宴会を「おきゃく」と呼び、初対面の方とも分け隔てなく関わる文化があります。この文化は日常の中でも人々との温かな交流を育んでいます。そんな高知の地で、皆様とお会いできることを心より楽しみにしております。

テーマは「たいけん・けいけん」
2026年10月17日～18日
高知で待ってます。

第34回四国作業療法学会のご報告

2025年9月13日・14日に開催されました第34回四国作業療法学会にご参加いただき、誠にありがとうございました。講師・演者の皆様をはじめ、学会運営に携わっていただいた多くの関係者のご支援により、無事に学会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

本学会では「たいけん・けいけん・つながるけん」をテーマに、「祭り」をコンセプトとして掲げ、皆様がわくわくし、楽しみ、熱く語り合える場となることを目指して準備を進めて参りました。当日は会場全体に笑顔や活気が広がり、人が集い、つながる場ならではの学会になったかと感じております。

次回は高知県にて開催されます。稲富惇一学会長のもと、「共に前へー私たちは未来に何を残せるかー」をテーマに準備が進められております。実行委員の皆様のご行動力や丁寧な取り組みに触れ、次回がどのような場になるのか、今から楽しみにしております。ぜひ学会にご参加いただき、多くの仲間と共に熱く私たちの未来を描いていきましょう。





県士会トピックス

徳島県



徳島県作業療法士会 事務局

徳島県作業療法士会 奥野 國雄

令和7年11月16日、ゆめタウン徳島で開催された「FUKU フェス！2025」に参加させていただきました。このイベントは「福祉のあたたかさ＝ヌクモリティ」をテーマに、見て、体験して、家族みんなで楽しめる内容で構成され、各ゲストによるライブステージも並行して催されるなど、当日は非常に多くの来場者で賑わいました。当士会は、作業療法啓発活動の一環として創作活動や評価・自助具体験、パンフレットの配布などを実施しました。特に、お子さんにも楽しんでいただけるように内容を工夫したのが好評を博

し、約250名の方にご参加いただきました。想定を上回る盛況に対応に追われる場面もありましたが、偶然居合わせた養成校の学生さんやその保護者の方、通りがかった知人も巻き込みながら、終始和やかな雰囲気の中で楽しく運営することができました。今回の取り組みで当初の目的がどの程度達成されたかは未知数ではありますが、こうした楽しい時間の積み重ねが未来を担う作業療法士の誕生に繋がることを信じて、これからも「届く啓発」を続けていきたいと考えています。



香川県



香川県作業療法士会 事務局

香川県作業療法士会 山下 良二

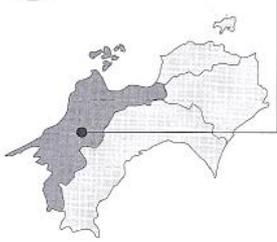
第59回日本作業療法学会(高松学会)に県士会としてブースを出展

令和7年11月7日(金)～9日(日)第59回日本作業療法学会が高松市で開催されました。会場は香川県の新たな観光スポットとなりましたあなぶきアリーナ香川とサンポートホール高松で、参加された作業療法士の先生方は3200名を超え、大いに賑わいを見せる学会となりました。

香川県作業療法士会では「香川県作業療法士会ブース」を設置しました。当ブースはおもてなしの気持ちで「ようこそ、香川へ」のコンセプトのもと参加者をお迎えしました。300名近い方に立ち寄っていただき、全国のOTはもちろんのこと、インドやオーストラリアのOTとも交流を深めました。県士会員の所属する放課後デイサービスの児童が作成した香川県の地図が会場でも目を引き、来場者からもすごく好評でした。あなぶきアリーナ香川もきれいで目の前が海のロケーションの中、アンケートからも当ブースの企画は好評だったようです。準備や当日運営に尽力された会員の皆様ありがとうございました。

インドやオーストラリアのOTとも交流を深めました。県士会員の所属する放課後デイサービスの児童が作成した香川県の地図が会場でも目を引き、来場者からもすごく好評でした。あなぶきアリーナ香川もきれいで目の前が海のロケーションの中、アンケートからも当ブースの企画は好評だったようです。準備や当日運営に尽力された会員の皆様ありがとうございました。





愛媛県作業療法士会 事務局

愛媛県作業療法士会 花田 智仁

令和 7 年 11 月 1 日、フジグラン重信店グランモール専門店街イベントスペースにて、**第 26 回市民公開講座「作業療法士体験イベント」**を開催しました。本講座は、作業療法をより身近に感じていただくことを目的に、見て・触れて・体験できる参加型イベントとして企画したものです。例年は市民会館など公共施設での講義形式で開催していたため、商業施設での開催は初めての試みとなりました。

当日は午前中のみでの半日開催でしたが、事業部員、広報部、支援部門が積極的に声をかけ、店内を歩き回りながら呼び込みを続けたことで、多くの買い物客が足を止めてくれました。呼び込みは決して容易ではなく、声を張り続けたり、興味を持ってもらうためにブース配置を工夫したりと大変な場面もありましたが、その努力が実を結び、最終的に 51 名の方に参加していただくことができました。幅広い年代の方々に参加していただけたことは、商業施設ならではの成果だと感じています。リハビリ体験ブースでは、不便体験や自助具体験を通して、作業療法士が日常生活の困りごとにとどのように寄り添うのかを体験していただきました。「実際にやってみると難しい」「気持ちが分かった」といった声も寄せられ、作業療法の役割を実感していただく機会となりました。また、認知症や発達障害に関する個別相談も実施し、ご本人やご家族の不安や疑問に対応しました。さらに、県内の作業療法士養成校の教員による進路相談やパンフレットの配布、作業療法概論の説明など、中高生や保護者に向けた作業療法および養成校の紹介も行いました。

アンケートでは、作業療法を「よく知れた」と回答した方が多く、体験や相談を通じて理解が深まった様子が伺え、地域住民への啓発に大きく寄与したと感じています。今後も、県民の皆さまに作業療法の魅力を伝え、健康づくりや進路選択の一助となるよう、継続した取り組みを進めてまいります。



高知県作業療法士会 事務局

高知県作業療法士会 浅川 英則

高知県作業療法士会では組織率向上委員会の設置に伴い、会員向けのアンケートを複数回実施してきました。現在も継続的に会員の意向や要望を知るべく継続していますが、そんな中で多く聞かれたのが研修会等の参加費決済方法についてでした。対面研修は現地で徴収できましたがオンライン研修は事前の振り込みであったため、多くの会員が煩わしさを感じていたようです。そこで今年度よりオンライン決済を導入し、運用を始めました。参加者の種別や金額の選択ミスなどエラーは一定数あるものの、その都度対応しながら慣れつつある状態です。他にもアンケート内容から、士会運営の中で時代と共に変えていくべきものに順次着手していく予定です。



次に災害支援部が参画している**高知 JRAT (KORAT)** が日赤支援チームとの**合同訓練**に初めて参加しました。模擬被災者の方々に対してそれぞれの立場でどのように関わるか、本部への報告など、リアルな体験をすることができました。他職種や他団体との交わりは多くの気づきを与えてくれます。今後も体験の機会があれば積極的に参画していきます。



(一社) 日本作業療法士協会
理事 三澤 一登
愛媛十全医療学院 作業療法学科顧問

「2025 年度を振り返る」

はじめに、日本作業療法士協会初代会長の鈴木明子先生が7月にご逝去されました。日本の作業療法士（以下、OT）のパイオニア的な存在でもあり、多くの OT の心の支えになっていたかと思います。鈴木先生とは、個人的にも交流があり先生の言葉で記憶しているのは、「しなかったことは否定され、したことは肯定されても否定されることはない。」この言葉の意味を私なりに理解し現在に至っております。その思いを継承し故人に対し深い悲しみとともに、こころより哀悼の意を表します。

改めて 2025 年を振り返ると、人々の生活に直結する物価の高騰や人材確保に伴う処遇改善等、雇用問題が議論され、さらには人口減少に伴う地域サービスの確保が困難となり、結果として地域間格差の拡大が問題視されています。また、医療に限らず介護・障害福祉においても OT にとって様々な課題が見受けられた年でもあります。この様な中で、人々の生活に主眼を置き住み慣れた地域で自分らしく安心して安全に暮らしが出来るよう支援が出来る専門職が、今後、益々必要とされます。我々、OT が果たすべき役割は明確なので制度の中に位置付けられ活かされるよう、その成果と効果を提示し OT の存在を再認知してもらう必要があります。社会から求められる OT は当然の資格で何が出来る専門職かを提示する必要があります。社会から求められているのは「質」の担保です。当協会が新たに推進している生涯学修制度はまさしくこれにあたります。多職種と同様に信頼される存在になる為にも「しない選択」ではなく「する選択」を最優先すべき時にきています。

リハビリテーションを取り巻く環境は、トリプル改定後の影響も顕著にあらわれ、特に医療においては病棟機能や入院期間の短縮に伴う時期別・疾患別リハビリテーションの果たす役割を再度問われています。介護や福祉も同様に共生社会の実現に向けて人口減少に伴う地域間格差を抑制するためにも地域特性を踏まえた長期的視点に立った対応と準備が求められております。厚生労働省においては2040年を見据えた新たな地域医療構想の提案がなされております。今や病院は潰れないは過去のこと、生き残るには地域の現状を踏まえ他機関との連携や役割をどう担っていくかに掛かっております。

今期の私の協会での役割は、会長が主に担っている渉外活動を補佐し関係・関連団体や他機関との連携強化を推進することになります。また、今までの経験を活かし次世代の人材育成を担うことになります。

「今後について」

OT の職域は保健・医療・教育・福祉・労働・司法等は拡大しております。また、OT が対象としている障害種別や年齢層に関わらず介入できるのは「作業」を手段として用いるからです。ライフステージにおける環境や個人の状態変化によって、OT に求められることは異なったとしても「人」-「作業」-「環境」に介入できることが OT の強みです。OT の存在と専門性をより活かすのは当事者・家族のためでもあり、我々、OT のためにもなります。今後、OT が取り組むべき事はそれぞれの専門領域を極めると同時に OT 間で領域間連携を意識し横の繋がりをもつことで自身がその価値を再認識することが出来ます。最後に私は多職種連携で OT の良さと重要性を再認識することが出来ました。

【編集後記】

医療情勢や働き方が変化し将来への不安もありますが、作業療法の職域は着実に広がっています。本誌が紹介する各地の実践は、その価値を社会に証明する一歩です。四国4県の連携を深め、互いを尊重し合うことで、次世代が夢と誇りを持てる未来を共に築いていきましょう。

理事会報告

令和7年度四国作業療法士会連絡協議会第1回役員会議

日時：令和7年9月13日（土） 15：20～16：00 場所：四国作業療法学会 愛媛大学基礎第一講義室

出席者

会長：前田 悠志（香川県）

副会長：丹生谷哲哉（愛媛県）

監事：上田 裕久（徳島県）

監事：浅川 英則（高知県）

理事：松本嘉次郎（香川県）

理事：三澤 一登（愛媛県）

理事：岡村 忠弘（高知県）

理事：細川 友和（徳島県）

学会長：山田 太一（愛媛県）

事務局：大森 大輔（香川県）

→7月より上記役員で承認

◆協議事項1

【役員の変更について】

香川県士会の役員改選に伴い、松本嘉次郎氏から前田悠志氏への会長交代が報告され、承認されました。任期は令和9年度の総会までとなります。また、平成28年度規約に基づき、役員定数（会長1名、副会長1名、理事6名、監事2名）の確認が行われました。→承認

◆協議事項2

【次期四国作業療法学会（第35回）について】

高知県で開催予定の「第35回四国作業療法学会」の概要が報告されました。

学会長：稲富 惇一 氏（高知健康科学大学／土佐リハビリテーションカレッジ）

日程：2026年10月17日（土）・18日（日）

会場：高知健康科学大学／土佐リハビリテーションカレッジ

テーマ：調整中（高知らしさを出し、若手が参加しやすい内容を検討）

◆協議事項3

【学会拠出金と広報活動について】

来年度学会の拠出金（200万円）について、各県士会の会員数に応じた計算と、令和8年5～6月頃の集金時期について協議されました。→承認

今年度の各県士会学会において、次期学会実行委員会によるアナウンスやチラシ配布を行い、連携を強化していくことが確認されました。

令和7年度四国作業療法士会連絡協議会 メール協議事項

日時：令和7年9月19日（金）～9月23日（火）、11月20日（木）～11月25日（火）

◆協議事項1

来年度学会の拠出金集金予定が令和8年度5～6月頃と協議され承認されたが、令和9年度学会の開催時期が未定であるため、令和8年度に2度拠出金を集金することになることから、令和7年度で集金してはどうか。→承認

◆協議事項2

【第35回四国作業療法学会 拠出金計算書・振込時期】

・拠出金計算書について

会員数の四捨五入をせず、拠出金を千円単位で四捨五入して算出しています。

この場合、切り捨てが多くなり合計が1,999,000円となるため、学会担当県の高知県へ1,000円上乗せして調整しました。

愛媛：会員数1107 拠出金740,000円

香川：会員数592 拠出金396,000円

高知：会員数727 拠出金487,000円

徳島：会員数564 拠出金377,000円

→承認。

・振込先を事務局へ連絡していただき、依頼文を添えて各士会へ納入の依頼をさせていただきます。会費納入締め切りは令和7年12月19日（金）でどうか。→承認。